

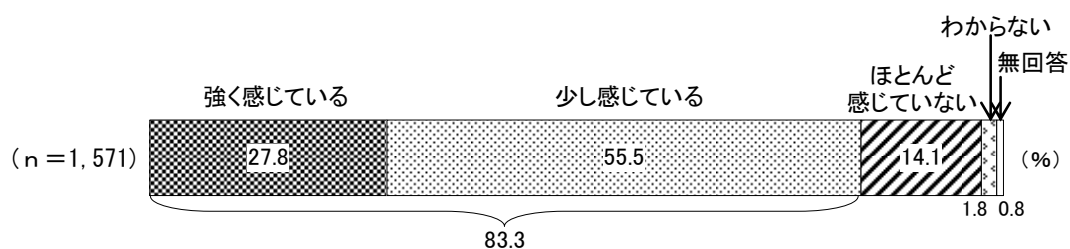
## 4 【防災に関する取り組みについて】

### (1) 大地震や風水害への不安

◇『感じている』が8割台半ば

問11 今年10月までに国内で、震度5弱以上の地震が4回発生しています。また、梅雨期の記録的な大雨や台風などにより九州、中国、東海地方を中心に浸水害や土砂災害などが発生しました。あなたは、自分の住んでいる地域で、大地震や風水害が起こるのではないかと不安を感じていますか。(〇は1つ)

<図表 11-1>大地震や風水害への不安



大地震や風水害への不安を聞いたところ、「強く感じている」(27.8%)と「少し感じている」(55.5%)を合わせた『感じている』(83.3%)は8割台半ばとなっている。一方、「ほとんど感じていない」(14.1%)は1割台半ばとなっている。(図表 11-1)

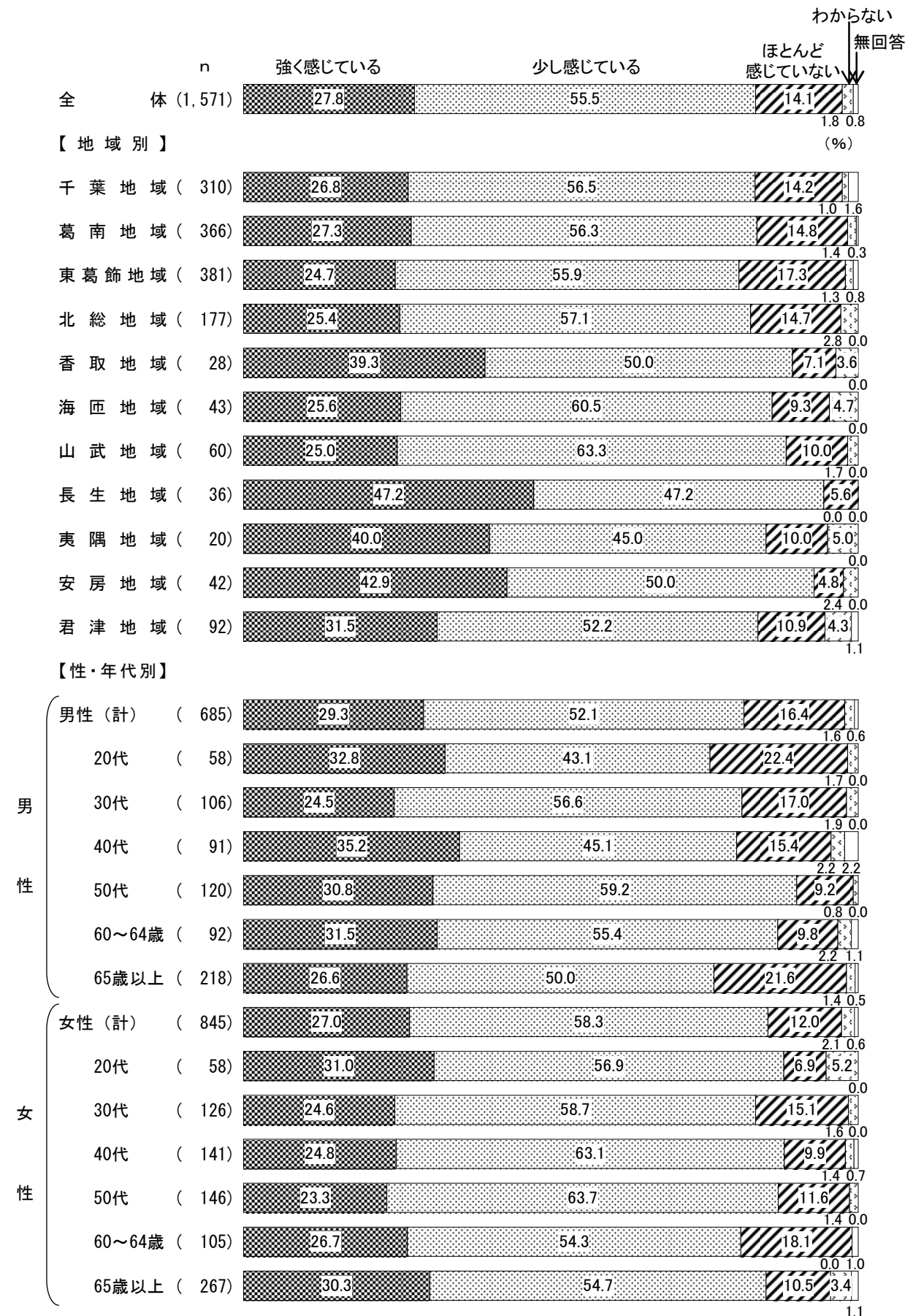
#### 【地域別】

地域別にみると、「強く感じている」は“長生地域”(47.2%)で約5割と他の地域に比べて高くなっている。「ほとんど感じていない」は“東葛飾地域”(17.3%)が約2割となっている。(図表 11-2)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『感じている』は男性50代(90.0%)が9割で他の年代に比べて高くなっている。(図表 11-2)

<図表 11-2>大地震や風水害への不安／地域別、性・年代別



## (2) 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度

◇「知っている」が6割

問12 市町村では、災害から住民を守るために「避難勧告」や「避難指示」を発令することがあります。あなたは、これらの意味や違いを知っていますか。(○は1つ)

＜図表 12-1＞「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度



「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度を聞いたところ、「知っている」(60.6%)が6割となっている。一方、「知らない」(38.3%)は約4割となっている。(図表 12-1)

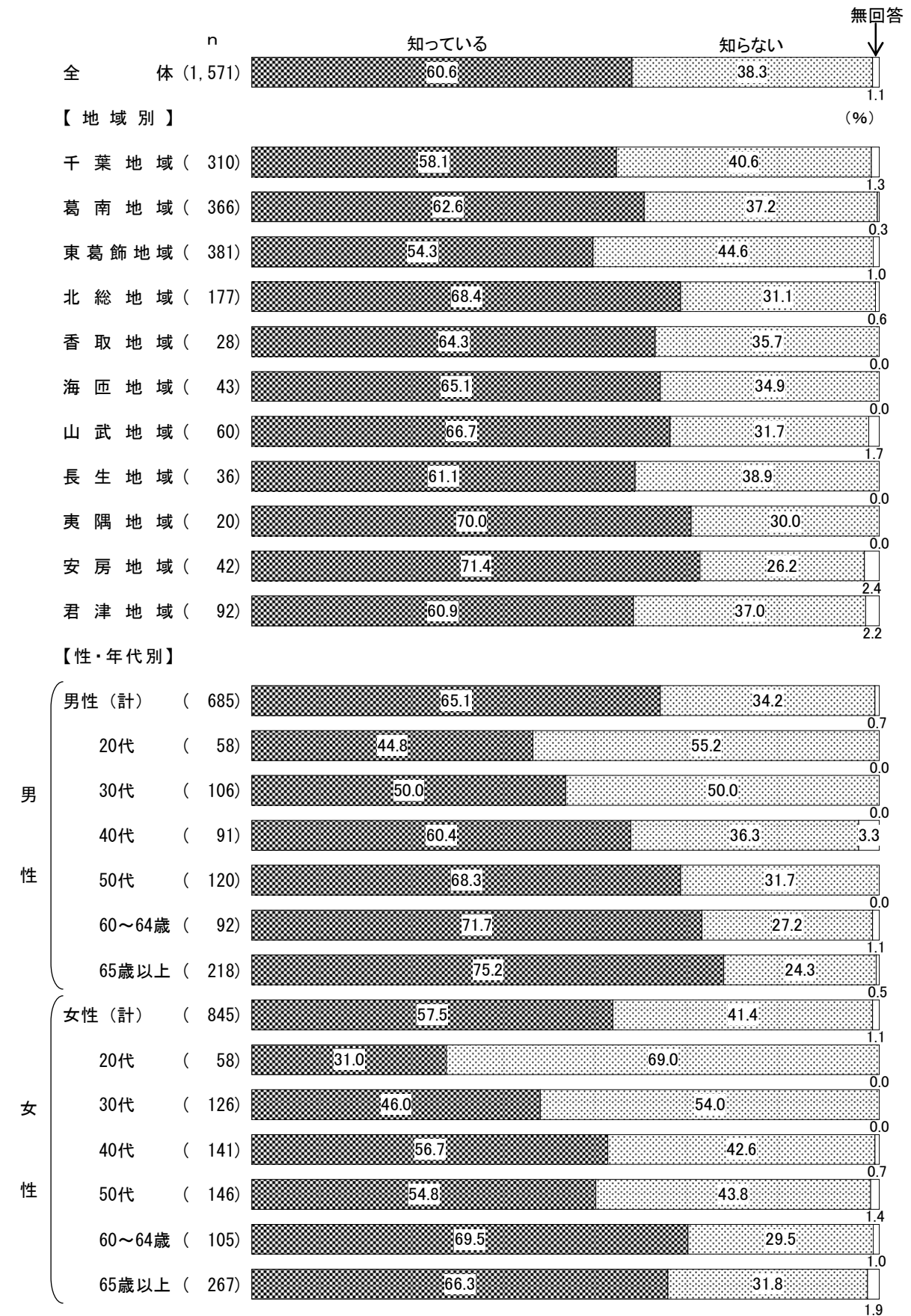
### 【地域別】

地域別にみると、「知らない」は“東葛飾地域”(44.6%)が4割台半ばで他の地域に比べて高くなっている。(図表 12-2)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は男女ともおおむね年代が上がるほど割合が高くなる傾向がみられる。(図表12-2)

<図表 12-2> 「避難勧告」「避難指示」の意味や違いの認知度／地域別、性・年代別

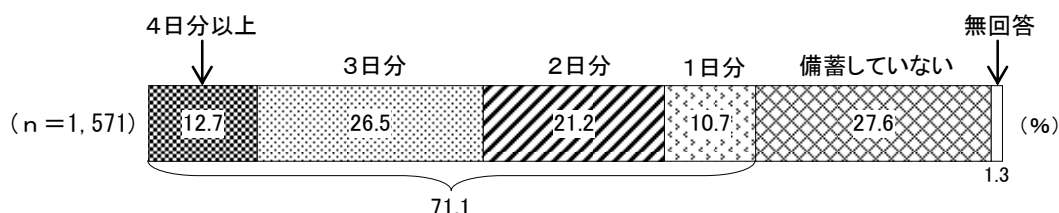


### (3) 飲料水や食料の備蓄状況

◇『3日以上』は約4割

問13 大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることが予測されます。あなたは、災害に備えて、冷蔵庫等にあるものを含めて、飲料水や食料をおよそ何日分、備蓄していますか。(○は1つ)

<図表 13-1> 飲料水や食料の備蓄状況



飲料水や食料の備蓄状況を聞いたところ、「3日分」(26.5%)が2割台半ばで、「2日分」(21.2%)は2割を超え、これに「4日分以上」(12.7%)と「1日分」(10.7%)の4つを合わせた『備蓄している』(71.1%)は7割を超えている。「備蓄していない」(27.6%)は約3割となっている。

(図表 13-1)

#### 【地域別】

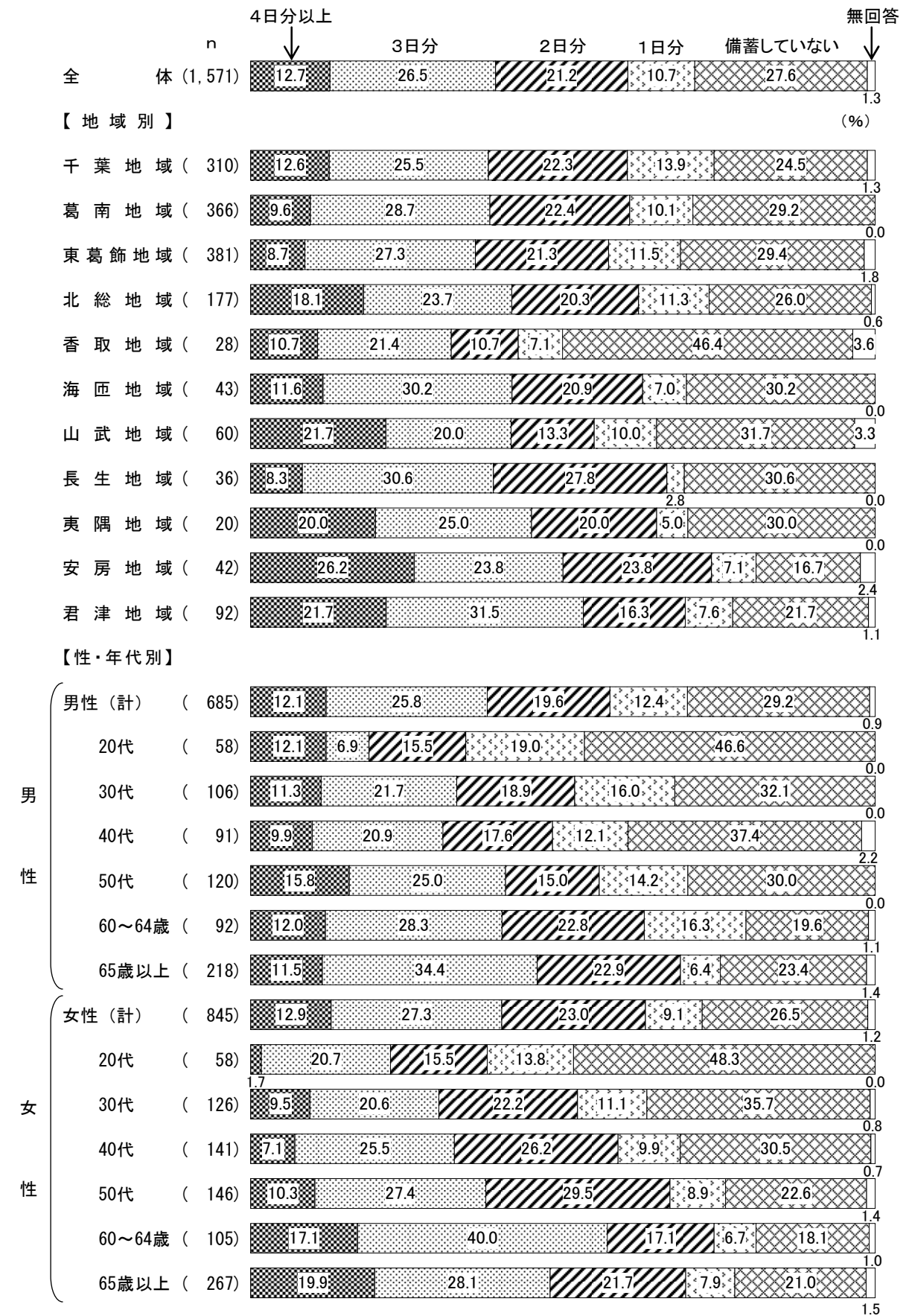
地域別にみると、『備蓄している』は“安房地域”(80.9%)が8割と他の地域に比べて高くなっている。「備蓄していない」は“香取地域”(46.4%)が4割台半ばと他の地域に比べて高くなっている。

(図表 13-2)

#### 【性・年代別】

性・年代別にみると、『備蓄している』は女性60～64歳(80.9%)が8割、男性60～64歳(79.4%)が約8割と他の年代に比べて高くなっている。「備蓄していない」は女性20代(48.3%)が約5割、男性20代(46.6%)が4割台半ばと他の年代に比べて高くなっている。(図表13-2)

<図表 13-2> 飲料水や食料の備蓄状況／地域別、性・年代別



#### (4) 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度

◇「知っている」が4割を超える

問14 固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、災害が発生した際には利用が急増し、平常時のように使用できなくなるおそれがあります。あなたは、災害時に利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤルを知っていますか。（○は1つ）

<図表 14-1> 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度



災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度を聞いたところ、「知っている」(41.5%)が4割を超えている。一方、「知らない」(57.6%)は約6割となっている。(図表 14-1)

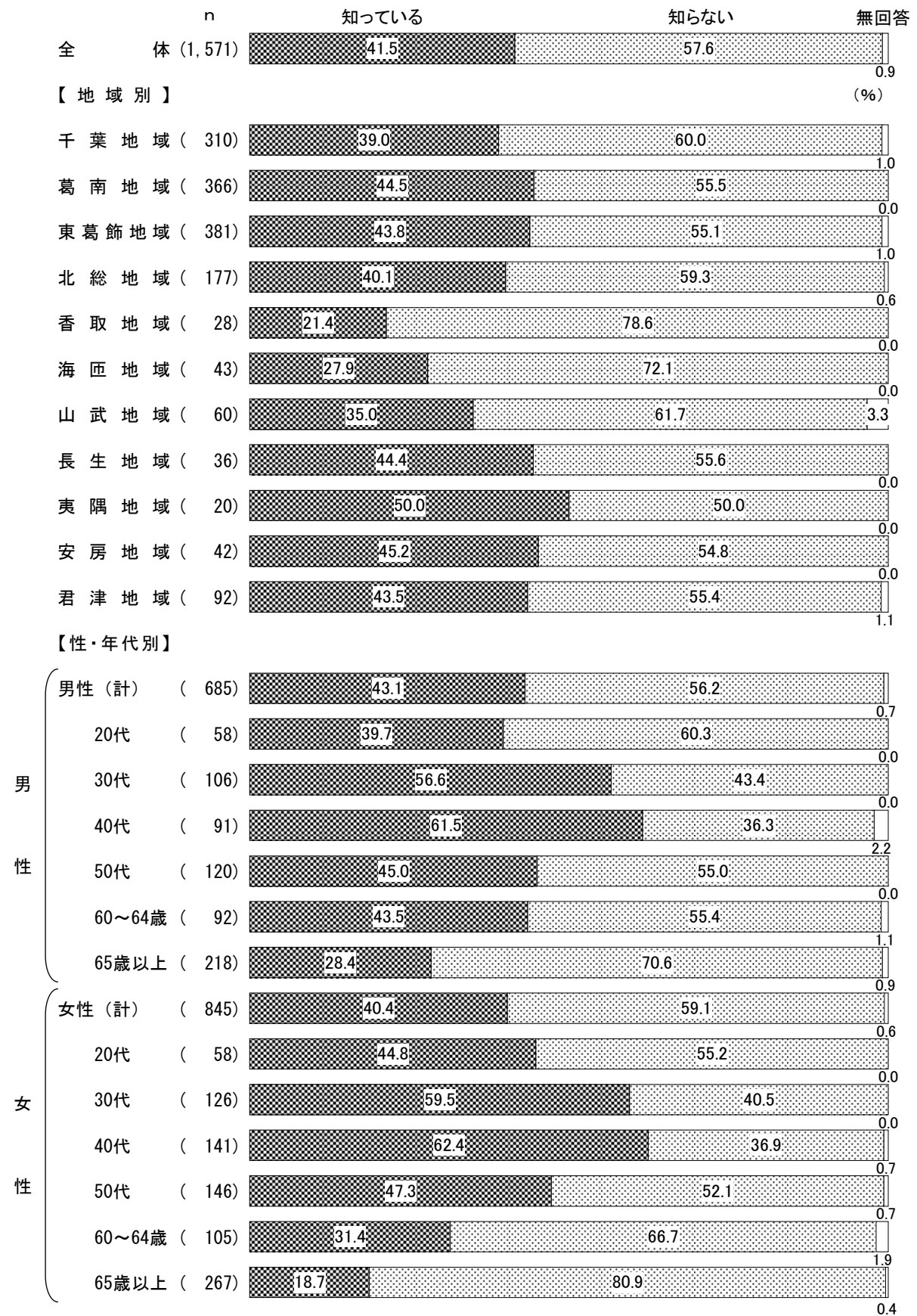
##### 【地域別】

地域別にみると、「知らない」は“香取地域”(78.6%)と“海匝地域”(72.1%)で7割台と他の地域に比べて高くなっている。(図表 14-2)

##### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「知っている」は男性40代(61.5%)と女性40代(62.4%)がともに6割を超え他の年代に比べて高くなっている。一方、「知らない」は女性65歳以上(80.9%)が8割、男性65歳以上(70.6%)が7割となっている。(図表14-2)

<図表 14-2> 災害伝言板・災害用伝言ダイヤルの認知度／地域別、性・年代別





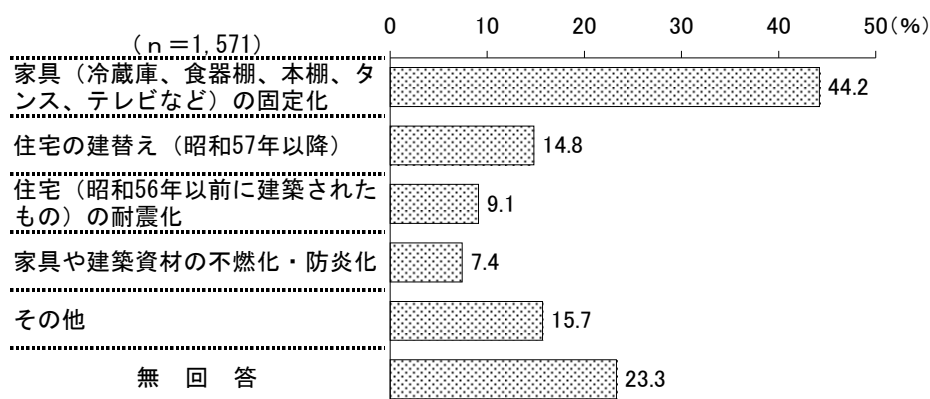
## (5) 地震の被害を防ぐための対策

◇「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」が4割台半ば

問15 あなたは、地震による被害を防ぐため、どのような対策を行っていますか。

(○はいくつでも)

<図表 15-1>地震の被害を防ぐための対策



地震の被害を防ぐための対策を聞いたところ、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（44.2%）が4割台半ばとなっており、以下、「住宅の建替え（昭和57年以降）」（14.8%）、「住宅（昭和56年以前に建築されたもの）の耐震化」（9.1%）などが続く。（図表15-1）

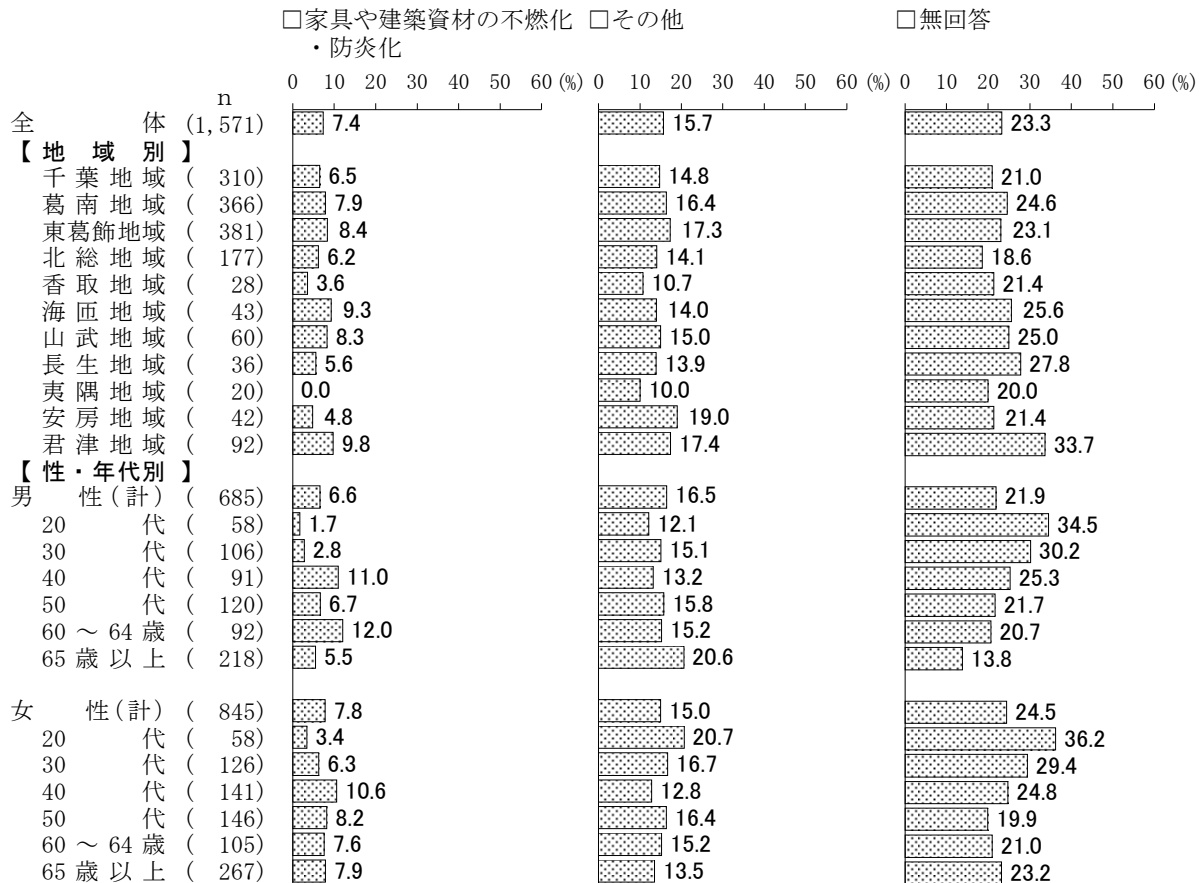
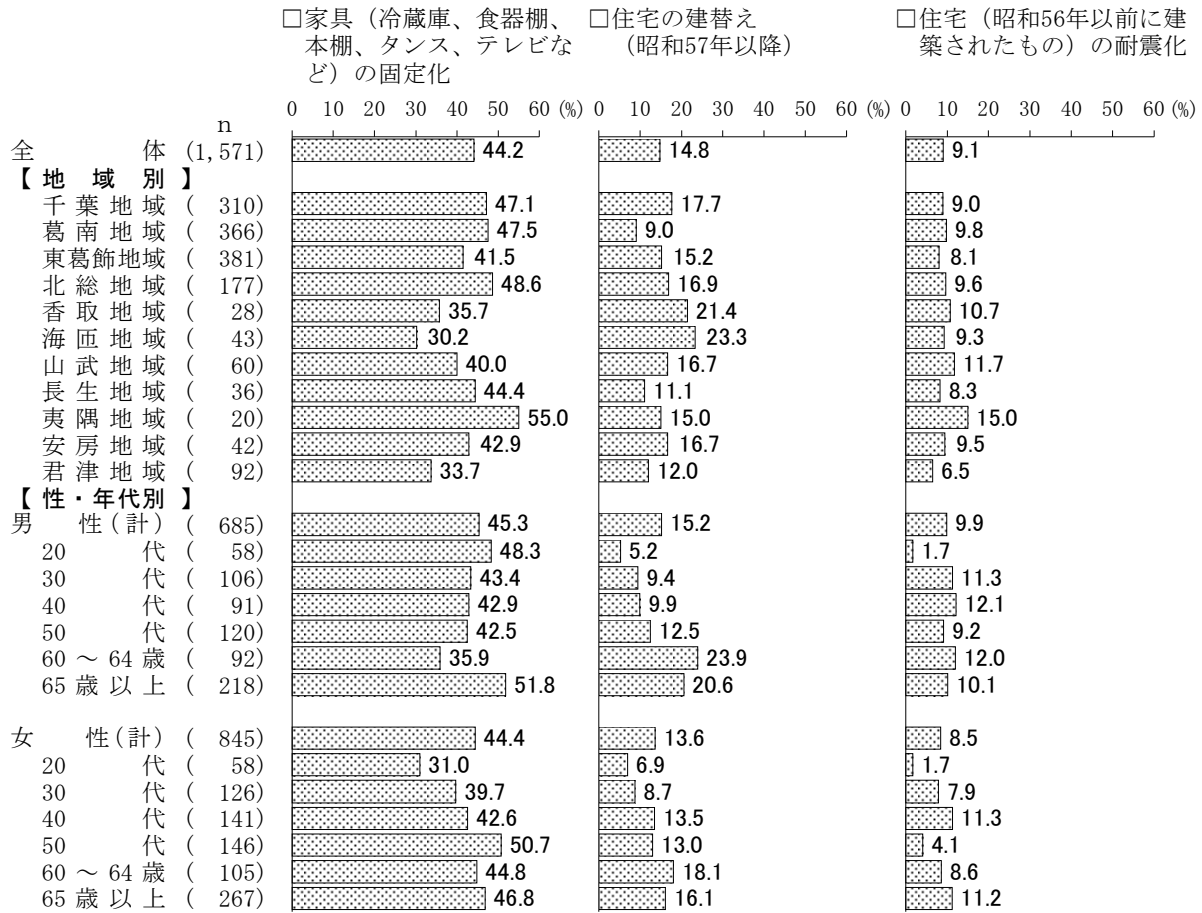
### 【地域別】

地域別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は“夷隅地域”（55.0%）が5割台半ば、“北総地域”（48.6%）、“葛南地域”（47.5%）、“千葉地域”（47.1%）が約5割で他の地域に比べて高くなっている。（図表15-2）

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は男性65歳以上（51.8%）と女性50代（50.7%）が5割を超え他の年代に比べて高くなっている。「住宅の建替え（昭和57年以降）」は男性60～64歳（23.9%）と男性65歳以上（20.6%）で2割を超え他の年代に比べて高くなっている。（図表15-2）

<図表 15-2>地震の被害を防ぐための対策／地域別、性・年代別

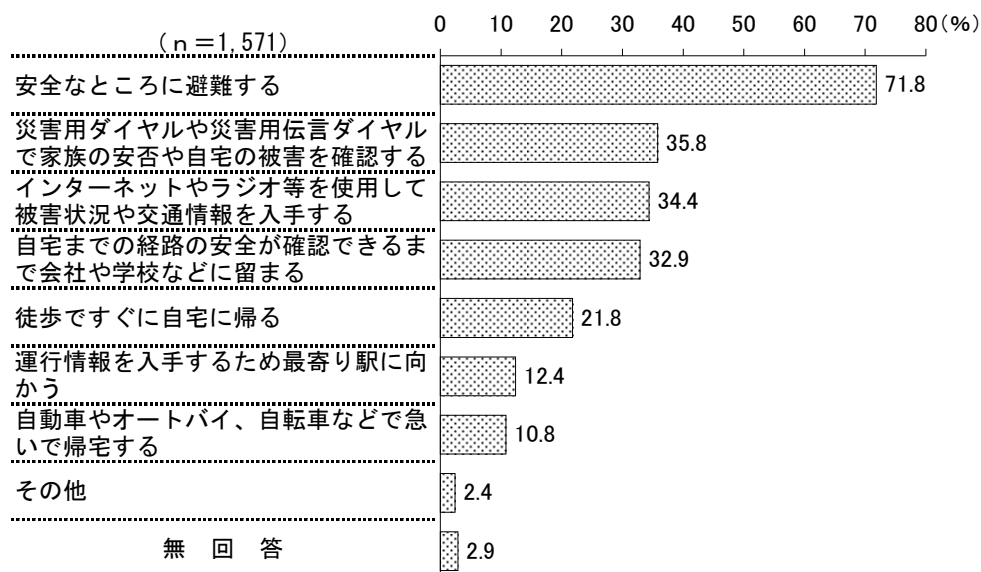


## (6) 外出先で大地震に遭遇した直後にとる行動

◇「安全なところに避難する」が7割を超える

問16 大規模地震などにより電車等が止まってしまった場合、勤務先や通学先など外出先から帰宅することが困難になるおそれがあります。あなたは、外出先で大地震が発生したら、その直後にどのような行動をとりますか。(〇はいくつでも)

<図表 16-1> 外出先で大地震に遭遇した直後にとる行動



外出先で大地震に遭遇した直後にとる行動を聞いたところ、「安全なところに避難する」(71.8%)が7割を超えており、以下、「災害用ダイヤルや災害用伝言ダイヤルで家族の安否や自宅の被害を確認する」(35.8%)、「インターネットやラジオ等を使用して被害状況や交通情報を入手する」(34.4%)、「自宅までの経路の安全が確認できるまで会社や学校などに留まる」(32.9%)などが続く。

(図表 16-1)

### 【地域別】

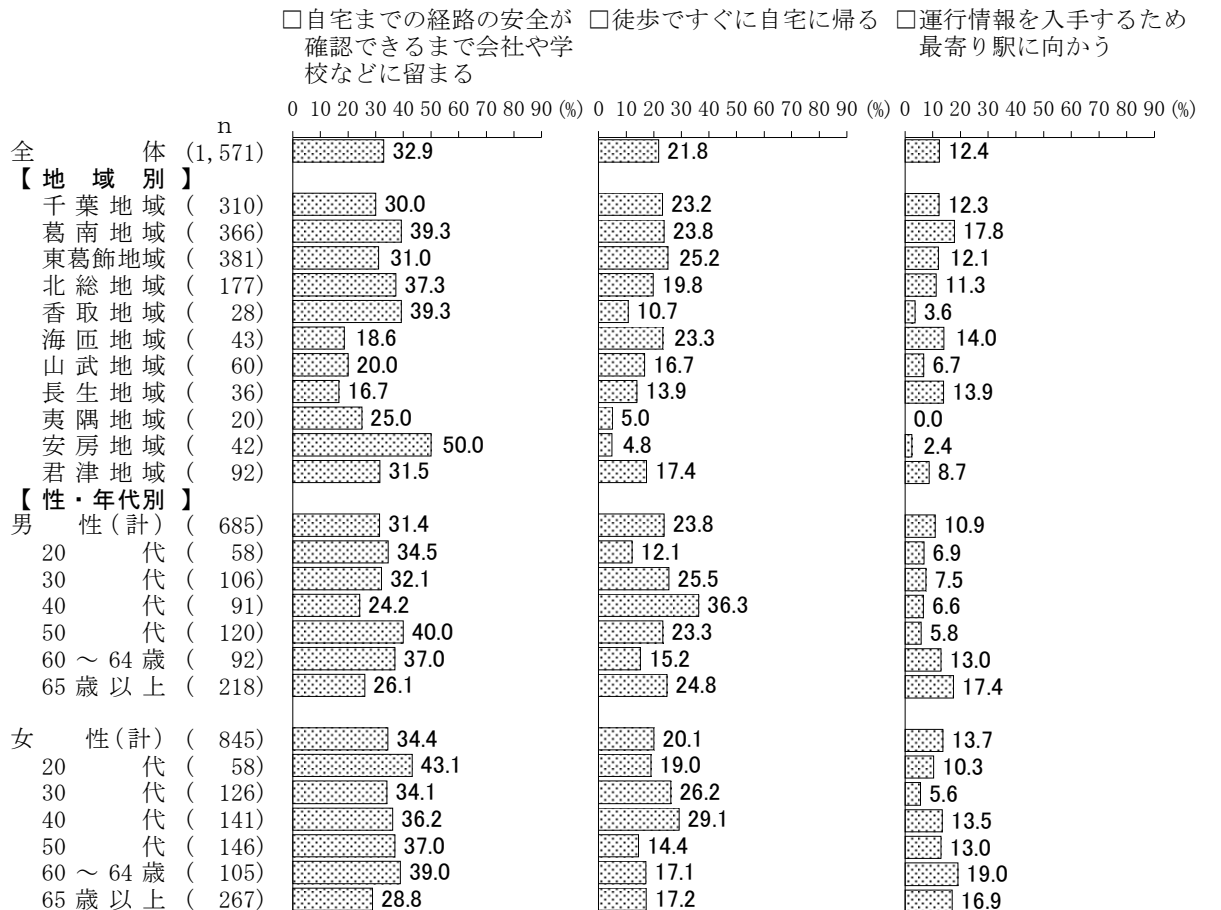
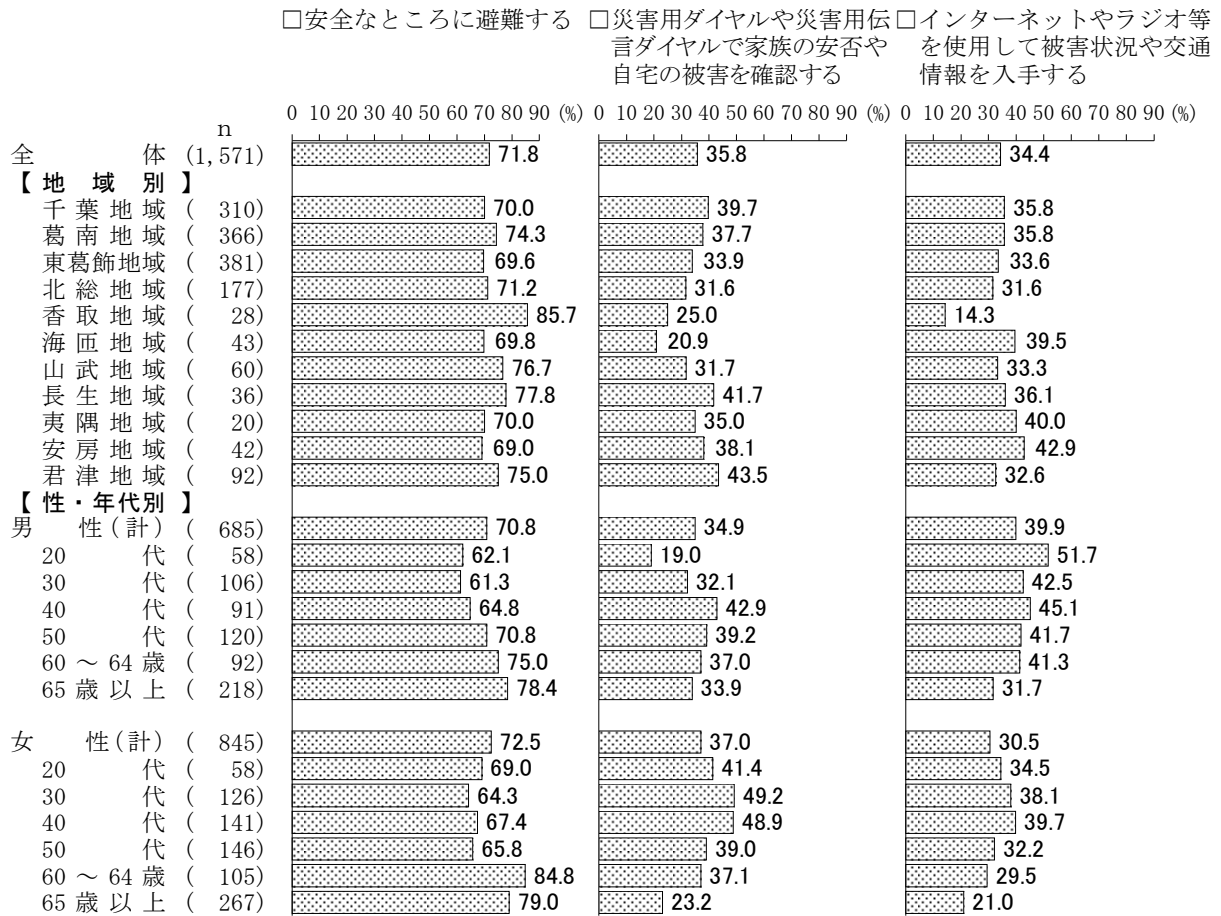
地域別にみると、「安全なところに避難する」はすべての地域で7割前後と高くなっている。「災害用ダイヤルや災害用伝言ダイヤルで家族の安否や自宅の被害を確認する」は“君津地域”(43.5%)と“長生地域”(41.7%)で4割を超え他の地域に比べて高くなっている。「自宅までの経路の安全が確認できるまで会社や学校などに留まる」は“安房地域”(50.0%)で5割となっている。(図表 16-2)

### 【性・年代別】

性・年代別にみると、「安全なところに避難する」は女性60～64歳(84.8%)が8割台半ばと他の年代に比べて最も高く、女性65歳以上(79.0%)と男性65歳以上(78.4%)も約8割となっている。

(図表16-2)

<図表 16-2> 外出先で大地震に遭遇した直後にとる行動/地域別、性・年代別



このほかに、「防災に関する取り組みについて」やここまでの質問（問11～問16）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、91人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

#### ■ 「防災に関する取り組みについて」の自由回答(抜粋)

- 主人の転勤で大阪に住んでいた時、阪神大震災にあいました。その時ニュースで大阪の病院は神戸などからの患者をいつでも受け入れる態勢でいたがそれを活かす事はなかったそうです。やはり日頃から近隣のネットワークを。（女性・50代・東葛飾地域）
- 住宅や社会のあらゆる設備、システムが電気ないしはコンピューターに依存しているので、災害時長期間停電が続いた場合、不安に思います。（男性・50代・葛南地域）
- 大規模な災害時、避難所にどれ位の人が収容できるのか不安。行政側が、地域割りを明確にしてもらえると有難い。救援物資もどのような方法で届けられるのか分からず不安。災害危険マップは市から配られているが、災害時マニュアルのような物があると安心だし、それによる啓発で一人一人が災害に対する意識を高めることも必要だと思う。3日間は自分達で生き延びられるように心がければいいと思う。（女性・40代・東葛飾地域）
- 年齢が高くなってきているので、今現在の避難場所が距離がありすぎるように思います。（男性・65歳以上・東葛飾地域）
- 上記に「大地震の際に帰宅する」という選択肢がありますが、7の「その場に留まる」が最適と考えています。「帰宅難民」という言葉がありますが、全員が帰宅する、という前提はおかしいです。家の様子を確認するのはすぐでなくても大丈夫。（男性・20代・葛南地域）
- 阪神大震災の教訓を生かした積極的な防災訓練をしている自治体が少ないようです。県において各市町村の防災に対する考え方、訓練の実施内容について調査のうえ公表してほしい。また、兵庫県において今後の大災害に備えて県のOB職員を活用することと千葉県を参考にしてほしい。（元千葉県職員として提言）（男性・65歳以上・山武地域）
- 防災に関する、情報をたえず知らせてほしい。（女性・50代・海匝地域）
- 大地震が生じた時に県や市がどのようなサービスを準備しているか全く情報がない。家族の落ち合う場所を決めているくらいが対策です。（男性・60～64歳・東葛飾地域）
- 防災に対する意識、利用できる災害伝言板や災害用伝言ダイヤル等については、私自身もまだまだ勉強不足だと感じている。もしも…の時のために、どのように動くのかについてのマニュアルを市民にも周知させ、意識を高めるべき。（女性・20代・長生地域）
- 地震速報等はTV等で確認できるが、それに対して千葉県及び各市町村の行政がどう対応しているかが見えない。行政が何を行っているかをもっと知る機会を増やしてほしい。（男性・20代・千葉地域）